

南大沢スマートシティ 事業概要

令和2年10月27日

東京都 都市整備局 市街地整備部

1. 事業概要 (全体)

■ 目的

- 南大沢駅周辺地区は、にぎわいのある拠点が形成され、学術研究とまちづくりが連携するエリアである一方、丘陵地のため、高齢者等の居住者の移動などが課題。
- このため、最先端技術の研究とICTなどの活用を図りながら、地域の課題や対応策等について、多くの関係者との調整や合意形成及び専門的見地からの検討が不可欠である。
- そこで、様々な関係者が参画する「南大沢スマートシティ協議会」を設立し、中長期的な取組について検討することを目的とする。

■ 今年度内容

- ① 庁内PTの開催・検討
▷南大沢スマートシティ実施計画 (たたき台) の作成
- ② 協議会・部会の開催・検討
▷地域の課題、先端技術による対策の検討
- ③ 実証実験の実施
▷自動走行可能なモビリティ等の実証実験

■ 検討体制



■ 実証実験 (予定)

<モビリティ・実験(A): 高齢者等移動支援>



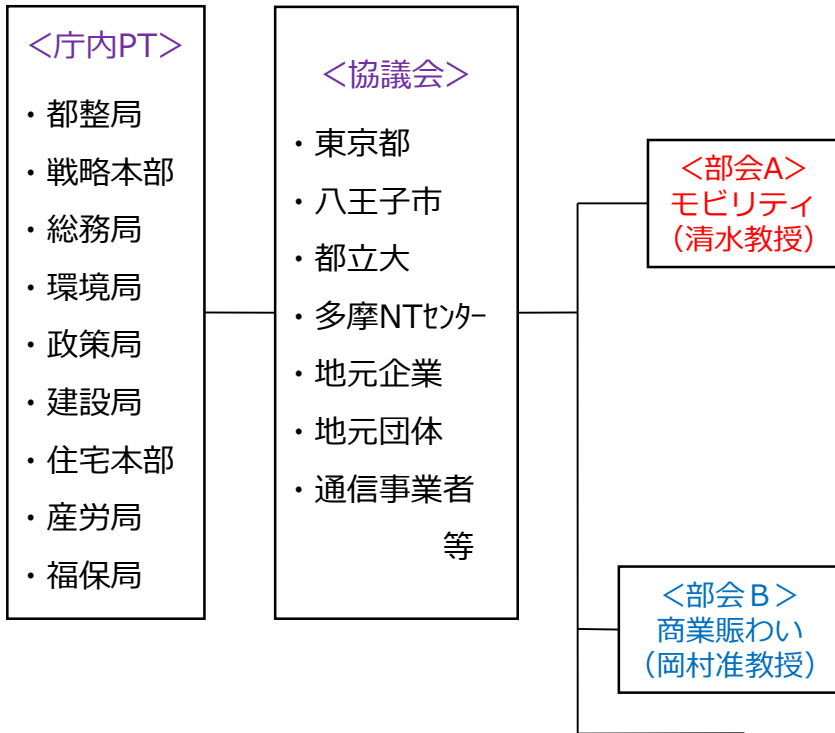
■ スケジュール

ロードマップ	令和2年度									令和3年度以降	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
①スマートシティ実施計画		計画(たたき台)策定			計画(たたき台)修正				計画策定	(必要に応じて修正・見直し)	
庁内PT (5回予定)	○			○		○		○	○	継続開催	
②協議会 (3回予定) 部会 (計12回予定)				●	10/27設立・第1回開催	●			●	継続開催	
				部会A・B・C (3部会×4回)							継続開催
③実証実験				関係者調整・準備				実証実験(A)		実証実験(B)・(C)	

- 【R3・4】
- 継続的な協議会・部会等の開催
 - 多面的な課題・対策の検討 (範囲拡大・対策拡充等)
 - 多様な実証実験の実施・検証

【R5】社会実装・他地区展開

■ 検討組織



■ 部会の検討内容（例）

課題

- 丘陵地の高低移動の負担軽減
- 住宅団地から駅・バス停までのアクセス交通の確保
- 鉄道とバス・タクシー・自転車等の円滑な乗換、地区内の快適な移動

対策

- 自動車いす、電動シェアサイクル・キックボード等の導入
- 自動運転EV（小型モビリティ、タクシー、デマンドバス等）の導入
- MaaS、TDM（カーシェア、P&R）、ITS（道路交通・駐車場情報等）の推進

実験（移動支援サービス等）

課題

- 高齢者・身障者・子連れ主婦の買物負担の軽減
- 商業施設の賑わい創出・決済等のサービス向上

対策

- 荷物配送・追従ロボットの導入、アバターによる遠隔買物サービスの導入
- デジタルサイネージによる店舗情報の提供、無人販売・顔認証決済の導入

実験（買物支援・決済サービス等）

課題

- コロナ禍における三密回避のための分散化
- ICT進展によるワークスタイルの多様化・高度化

対策

- 5G・ビッグデータの活用・情報提供による混雑回避・最適な案内誘導
- 衛星・シェアオフィス、コワーキングスペースの設置、WEB環境整備

実験（5G・ICT・IoT・AI・ビッグデータ等）

■ 部会の検討概要（案）

回	内容
第1回	地域の現況・課題の検討
第2回	課題を解決する先端技術の活用検討
第3回	先端技術の実証実験
第4回	実証実験の評価・今後の課題検討

<部会C>
情報他
(石川教授)

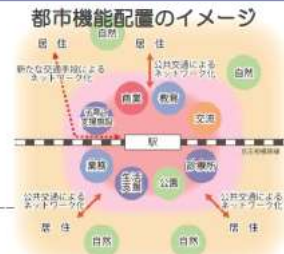
まちづくりの方向性 (案)

まちづくりの方針

既に備わった優れた地域資源を最大限に活かしつつ、都有地の活用を主軸として、多様なライフスタイルの実現を支える都市機能の集積を一層進め、商業・にぎわい、日常生活の利便性、ビジネス環境、国際性、多様な人々の交流などの一層の充実・向上を図ることで、南大沢駅周辺地区の持続可能な発展を誘導していく。

将来像

多様な人々が出会い、新たな技術によってまちと暮らしがアップデートされ、活力と魅力に満ちたまち



将来像1 ～コンパクトなまち～

多様な機能が駅前に集積し、にぎわいが生まれ、歩きたくなるまち

魅力的な拠点形成のための機能の複合化 (2③)

地区外から多くの人々が訪れる商業施設や大学の機能を強化しつつ、立地を活かして、より生活を豊かにし、人々が集い活力が生み出されるよう機能の複合化を進める

① 魅力的な商業施設の整備

- ・まちのにぎわいを一層創出するとともに、その場所で過ごすことに価値を生むような商業環境を整備

<対象エリア>にぎわい

② 落ち着いた街並み景観の形成

- ・豊かな自然環境や周辺市街地の良好な景観と一体となり、落ち着いた街並みと風格ある景観を形成

<対象エリア>にぎわい・文化・学術連携・研究

誰もが自分らしくポジティブに働ける環境の整備 (6)

時間や場所にとらわれない柔軟な働き方を可能とし、誰もが自分らしくポジティブに働ける環境を整備する

③ 生活と仕事の両立への支援

- ・多様な世代が利用できるシェアオフィスや子育て支援施設等の整備により、生活と仕事の両立を支援

<対象エリア>にぎわい

将来像2 ～スマートなまち～

先端技術活用や産学公連携により、持続可能な環境が創出されるまち

先端技術活用や産学公連携の促進 (5)

良好な都市基盤や大学・研究所が集積する立地を生かし、先端技術活用や産学公連携の取組を進めることで、地域の課題を解決するとともに、研究者・学生による起業等を促進していく

① 先端技術を取り入れたまちづくりの推進・大学や研究所の集積を活かした産学公連携の取組の推進

- ・都立大学、研究所等と連携し、技術開発やスタートアップ支援等の取組を促進
- ・都有地を活用し、先端技術の導入、ビジネスマッチング、起業等ビジネス環境の整備を促進

<対象エリア>にぎわい・文化・学術連携・研究

② 長寿社会を実現する取組の促進

- ・高齢化を見据え、ICT技術などを活用したヘルステックなどにより、住み慣れたまちでいつまでも健康に豊かな暮らしを実現できる取組を促進

<対象エリア>にぎわい・文化・学術連携・研究

駅前と住宅地間のアクセス性の強化 (1)

駅前ではより一層の拠点性を高めるために、駅前への円滑なアクセスが確保されるよう、住宅地とのネットワーク化を進め、住み続けられる環境を確保する

③ 誰もが移動しやすいネットワークの形成

- ・パーソナルモビリティの活用など新たな移動手段の導入を促進

- ・住宅地から地区内へのネットワークを強化

<対象エリア>にぎわい・文化・学術連携・研究

将来像3 ～多様性のあるまち～

国内外の多様な人々が集い交流し、安心快適に暮らせるまち

地域コミュニティの活性化と大学等と連携した多文化共生への対応 (4⑦)

エリアマネジメントの主体を育成し、大学等と連携して活発な市民活動やイベントなどを更に発展させていく

外国人等多様な人々が暮らしやすい環境の整備を進めることで、海外の研究者や留学生の増加にも対応し、地元への定着を支援する

① ゆるやかにつながる居場所づくり

- ・人との関わりが生まれ、生きがいを感じ、心豊かに暮らせるように、居場所(サードプレイス)空間を創出

<対象エリア>にぎわい・文化

② 多様な人々の交流の促進

- ・地域においていきいきと学び、活動・交流できる空間や機会の充実・地域コミュニティの活性化・エリアマネジメント組織と連携した取組により交流を促進

<対象エリア>にぎわい・文化・学術連携

③ 海外の研究者や留学生が暮らしやすい環境の整備

- ・海外の研究者や留学生等外国人との相互理解を図り、共に暮らせる地域を実現

- ・ハード・ソフトの両面で多文化共生の取組を促進

<対象エリア>にぎわい・文化・学術連携・研究